

## 筑波小での新人教師、田中博史 そのデビュー時代の学級通信 ～学級を拓くときに頑張ってきたこと～

本書は、私の筑波小への赴任一年目の学級通信を軸につくったものです。

1991年の春、私は縁あって山口県の公立小学校から東京の筑波大学附属小学校に赴任しました。当時、異動が新聞で発表された後、出会った故郷山口の先生たちからは「あの有名な有田和正先生の同僚になるんだね。すごい!」「よくぞ、東京に出る決心をしたね。山口と東京のパイプになってくださいね」など口々に激励の言葉をもらったのを今でもよく覚えています。

当時は、筑波小というと社会科の有田先生の名前がすぐにあがるほど、有名な方で私からすると雲の上の方です。同僚なんてとんでもない。

算数科には「問題解決の授業」で新しい提案をされた、私の憧れの手島勝朗先生もいらっしゃいました。私はなんとこの手島先生の後任としての赴任だったのです。

赴任した当時の算数科には、後の副校長先生の滝富夫先生をはじめ、正木孝昌先生、坪田耕三先生、志水廣先生という算数界では誰もが知っているビッグネームが勢ぞろいでした。

故郷から激励されて旅立ったのはいいけれど、私なんかがこの一角に入っているのだろうかという大きなプレッシャーの一年目だったのです。

筑波小では、1年から3年まで3年間同じクラスで過ごし、4年生で初めてのクラス替えを経験します。そしてそのクラスでそのまま6年生まで担任が続くのが慣例でした。私はその4年生の担任を任されました。

きっと保護者に見れば、「大切な高学年の担任が、田舎から来た経験の浅い無名の若手の先生か……。大丈夫かな。こりゃはずれだな」と口にこそ出さないけれど感じていたはずです。

本書はその筑波小赴任の一年目の私の悪戦苦闘、いや逆に張り切り過ぎの若手教師が空回りしている全記録が通信の形でそのまま詰まっています。

今思うと、なんと生意気な、そして浅はかなことを繰り返していたのだろうと恥ずかしくなります。しかも下手なのにすべて手書きです。当時は私だけでなく、多くの方が活字の通信よりも手書きの方が温かいのだという文化が強くありましたから、私もせっせと手書きにこだわっていました。もともと下手なのに付け加えて急いで書いていることもあり、お世辞にも上手い



字とは言えず読みにくいと思いますが、許してください。

このときの通信を読んでもらえばわかりますが、初代のときは授業実践記録がたくさん掲載されています。自分の実践記録をつくることも兼ねていたからです。

筑波小に赴任する直前の20代後半から32歳ぐらいまでは、教育雑誌や民間の研究会の案内を見て、とにかく面白そうだなと思うと、すぐにその会に参加していました。教育技術の法則化運動の会にも、教育科学研究会の授業づくり部会にも、そして数学教育協議会にも、さらには小集団学習の研究会にも……。とにかく実際に自分の目で見て確かめ、それらを追試して納得できるものを探し続けているといった感じでした。この通信にもその気配がまだしっかり残っています。残念ながらオリジナルな実践よりも先輩の真似や雑誌の実践報告の追試の方が多かったのですが、当時からそのバランスには悩んでいました。追試ならば子どもたちも楽しんでくれるのだけど、それだけでは筑波小の一員として新しい発信をしていくという役割は背負えない……。

自分らしさを試行錯誤しながら探していたのを覚えています。

どうぞ、新人教師の田中博史のもがきを読んでみてください。

今回は、特にクラス替えしたばかりの学級集団をどう育てるかに焦点をあててみたので、他の世代の4月の通信も付録でつけています。3部4年の学級通信と、4部4年の学級通信がそれです。

3部のクラスは、私が筑波小に赴任して15年たったときの通信です。初代のときの猪突猛進の激しさは少し薄れ、柔らかい文体になっている私があります。また4部のクラスは管理職になる前、最後にもった高学年のクラスでの通信です。こちらは、学校全体を束ねる立場として親へのメッセージなどが強く出ています。任された役割によって、私も通信の使い方を区別していたように思います。

読者の先生方、それぞれの立場で読んでいただき、少しでも役立つことがあれば幸いです。

最後になりますが、本書の作成に当たっては、最後まで私のわがまを大きな懐で受け止め協力して下さった東洋館出版社編集部長の畑中潤氏に深くお礼を申し上げる次第です。

令和5年3月

田中 博史



## 新しいクラスをもったときに意識すること

学級通信を読んでいただく前に、新しいクラスをもったときに私が意識していたことを少し整理しておきます。

### その1 “黄金の三日間”と呼ばれるスタートを焦らない

学級経営の本には、「最初の三日間が勝負」とよく書かれています。

確かに大切な出会いなのですが、大切さを勘違いしている方も多いと思います。特に次のようなアドバイスは要注意です。

「最初に厳しくしておかないと子どもたちになめられるよ」

「学級のルールを細かくつくって最初から教えておくことが大切だよ」

「学習の規律も最初にきちんとしておかないと授業が崩れるよ」

どうですか。いずれも一度は聞いたことがあると思います。でも……。

そんな方のクラスに限って子どもたちがとげとげしくなっていたり、男女の仲が悪かったり、あまり発表する子がいなかったりしていませんか。

先ほどの言葉を、そっくりそのまま管理職（または主任）の立場の方と自分の関係に置き換えてみるとよくわかります。

最初からその姿勢で向かってくる上司をあなたは好きになれますか。これから共に過ごす日々が楽しみになりますか。なんだか今度の人、ルールだらけで嫌だなと感じるのは、子どもたちだって同じなのです。

まずは、子どもたちが「今度の先生、面白そう」「話をよく聞いてくれそう」「優しそうでよかった」と感じてもらう方が先です。

子どもたちが安心してからでいいので、その上で「でも先生は、こういうのは許せない」ということを伝える場面も意識してつくります。

私の場合は、「友達のことを大切にしない」行為があったときには怖い先生に変身することを具体的な場面で伝えていました。通信の中にいろいろと出てきますが、その一つが席替えやグループづくりのときの子どもたちの何気ない言葉への対応です。

でも、こうした場面で大切なことは失敗させたらすぐにやり直すチャンスを与えて、最後は褒めて認めて終わることを意識することです。

### その2 一週間たったら軌道修正～子どもの声を聞く～

クラスがスタートしたら、いろいろとシステムをつくらないといけなくなります。当番をどうするか、係はどうかなど様々ですね。どのようにしていいかわからないときは、まずは定番の方法でいいのでとりあえず見切り発車してもいいです。でも、一週間したらそのプロセスを反省してつくり直すかもしれないよと宣言しておきます。動き出すと子どもたちから、この方法は低学年のと

筑波小での新人教師、田中博史 そのデビュー時代の学級通信	1
新しいクラスをもったときに意識すること	3
本書の見方	8
<b>「飛行船」(平成3(1991)年 2部4年)バージョン</b>	9
<b>NO.1 4月9日</b>	10
<b>NO.2 4月11日</b>	12
<b>NO.3 4月15日</b>	14
<b>通信を支える想い</b>	16
<b>NO.4 4月16日</b>	18
<b>NO.5 4月17日</b>	20
<b>NO.6 4月18日</b>	22
<b>通信を支える想い</b>	24
<b>NO.7 4月23日</b>	26
<b>NO.8 4月26日</b>	28
<b>通信を支える想い</b>	30
<b>NO.9 5月7日</b>	32
<b>NO.10 5月8日</b>	34
<b>NO.11 5月9日</b>	36
<b>NO.12 5月13日</b>	38
<b>NO.13 5月21日</b>	40
<b>NO.14 5月22日</b>	42
<b>通信を支える想い</b>	44
<b>NO.15 5月24日</b>	48
<b>NO.16 5月28日</b>	50
<b>NO.17 6月6日</b>	52
<b>NO.18 6月7日</b>	54
<b>通信を支える想い</b>	56
<b>NO.19 6月10日</b>	60
<b>NO.20 6月11日</b>	62



NO.21 6月●日	64
NO.22 7月8日	66
通信を支える想い	68
NO.23 7月10日	70
NO.24 7月15日	72
NO.25 7月16日	74
NO.26 7月18日	76
通信を支える想い	78
NO.27 9月2日	82
NO.28 9月11日	84
NO.29 9月11日	86
NO.30 9月12日	88
NO.31 9月17日	90
NO.32 9月24日	92
通信を支える想い	94
NO.33 10月3日	98
NO.34 10月17日	100
NO.35 10月17日	102
NO.36 10月18日	104
NO.37 12月12日	106
NO.38 12月21日	108
通信を支える想い	110
NO.39 1月13日	114
NO.40 1月22日	116
NO.41 2月25日	118
NO.42 3月21日	120
通信を支える想い	122

「輝跡」(平成18(2006)年 3部4年)バージョン ..... 125

NO.1 4月7日	126
NO.2 4月10日	128
NO.3 4月11日	130
通信を支える想い	132
NO.4 4月12日	136

NO.5 4月13日	138
NO.6 4月14日	140
NO.9 4月18日	142
通信を支える想い	144
NO.11 4月20日	146
NO.14 4月27日	148
NO.15 4月28日	150
通信を支える想い	152

「輝跡」(平成24(2012)年 4部4年)バージョン	155
-----------------------------	-----

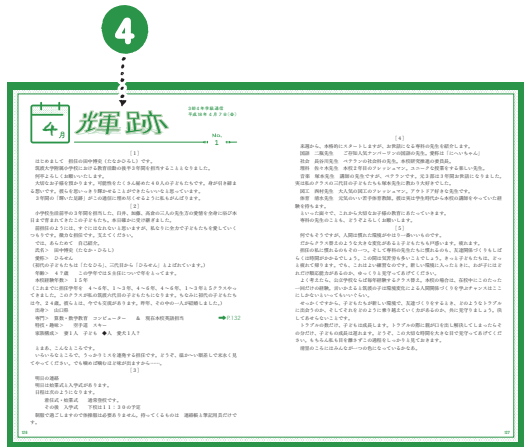
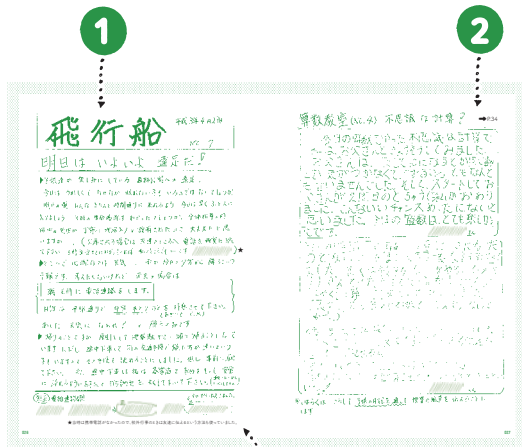
NO.1 4月9日	156
NO.2 4月10日	158
NO.3 4月11日	160
NO.4 4月12日	162
NO.5 4月14日	164
NO.6 4月16日	166
NO.7 4月24日	168
NO.8 4月26日	170
NO.9 4月27日	172
NO.10 5月1日	174
通信を支える想い	176

著者紹介	179
------	-----



# 本書の見方

本書は、「飛行船」(平成3年:2部4年)、「輝跡」(平成18年:3部4年)、「輝跡」(平成11年:4部4年)の三部構成となっております(クラス替えが中心ということで、「輝跡」はどちらも4月まで)。各時代の学級通信・学級づくりの様子をお楽しみください。



- 1 平成3年(1991年)の学級通信「飛行船」(2部4年)です。当時は手書きでした。できるだけそのまま残していますが、個人情報に関することは斜線で消しています。
- 2 該当ページの「通信を支える想い」で当時のことを解説しています。
- 3 ★部分の注釈です。
- 4 平成18年(2006年)の学級通信「輝跡」(3部4年)です。4月分のみ掲載しています。
- 5 平成24年(2012年)の学級通信「輝跡」(4部4年)です。4月分のみ掲載しています。

- 6 学年と部です。筑波大学附属小学校(以下、筑波小)では、「組」を「部」と称し、学年を後につけています。なお、クラスは3年間の持ち上がりです。
- 7 学級通信を発行した年月日と号数です。個人情報等の関係で本書に掲載していない号もあります。
- 8 「通信を支える想い」です。当時のクラスの様子や学級づくり等で気にかけていたことを、学級通信の内容を通して記載しています。

学級通信 平成3（1991）年

「2部4年」バージョン

「飛行船」

筑波小に赴任して  
一年目の4年生  
手書きです！

## 筑波小初代「たなかひろし」学級のスタート

「はじめに」でも触れましたが、当時は社会科の有田和正先生の書籍がたくさん出版されていて、地方の書店は有田先生の本で埋めつくされていました。

そんな憧れの先生のいる筑波大学附属小学校の一員に自分もなれることを、とても光栄に思うのと同時に、着任の日が近づくと大きな不安も感じ始めていました。そして、その不安はすぐに的中します。

地元の教員時代は、いろいろな本を読んで、その実践を真似し子どもたちを楽しませることがある程度できていたので自分に少しは自信をもっていたのです。ところが筑波小に赴任してからは何をしても子どもたちの方が前を歩いていることに気付かされました。

その典型場面がこれ。

私「どう、こんなブーメランがあるんだよ。みんなで作って校庭で遊ぼうか」  
子どもたち「わーい！」

子どもA「でも、先生、私たちこれ知ってるよ。低学年のとき、(田中)力先生と作ったよ。これね、もっとこうすると楽しいんだよ」

私「え？ あっそう……」

あとから振り返ると、私がネタ本にしていた書籍の多くには、奥付に筑波大学附属小学校の先生の名前がいくつもありました。その本家本元で真似しても子どもたちには何の新鮮さもないことを、わずか数日で思い知ることになるのです。

同学年には、NHKの理科番組で有名な先生、社会科や生活科で活躍されていて学級経営もピカイチと言われている先生、筑波大学で博士号をとっている国語のサラブレッド……。

私が太刀打ちできる要素は何一つなかったのです。

保護者からすると、田舎から上京してきたばかりで、東京の厳しい受験指導のイロハの体験もない世間知らずな青年教師。いわゆるはずれ教師でしかなかったわけです。

そんな田中博史の筑波大学附属小学校初代の教え子との日々を、どうぞ温かい目でご覧ください。



# 飛行船

2部4年 学級通信

発行者 田中博史

<NO. 1> 173. 4. 9

## はじめまして

## 担任の田中博史 です。

第1号の通信は 私の自己紹介をします。

[氏名] 田中博史 (たなか ひろし)

※既に本校には 田中弘先生が いらっしゃって 呼び名にとても苦勞しています。

"田中先生"と呼ぶと 3人の先生が、"ひろし先生"と呼ぶと これまた、3人の先生が 返事をしてしまうというわけです。

今のところ 算数の 田中先生と よんでもらっています。(ややしい...)

[生年月日] 昭和 33年 // // // 月 // // // 日 もうすぐ 33才になりす。

[家族] 妻一人、子 1.5人(?)

→ もうすぐ 2人目が 生まれますので...

[専門] 算数・数学教育

[特技] 空手道、スキー、パソコン、その他

[性格] 明るい、元気、時々 // // // になる??  
(子供達は 鬼と いますが...)

[教職経歴] 10年目になりました。  
(複式、1~6年 すべてもったことがあります。)

[出身] 山口県

私は、これまで 山口県で 教師をしていました。前任の 牛島先生とは、全国組織の算数の研究会で いろいろ お世話になっていました。その関係で一年の間に 何度か、東京へ でてくること ありましたが、まさか、こちらの地に 住むようになろうとは 夢にも 思っていませんでした。

4月は たくさんの 別れと 出会いが 生まれる時。

私とこの 39人の 子供達との 出会いも その ひとつです。

この 出会いを 価値あるものとするために、これからの一年間、がんばって いきます。どうぞ、よろしく お願い いたします。

これから 一年間、この 学級通信を通じて、学校での 子供達の様子や 連絡事項を 伝えたい と思います。

私の 学級通信の 特徴は、

1. 不定期的である。(ぞる時は1日に3枚ざたりするけれど、でなくなると2週間ぐらいでない時がある...)
2. 授業報告や子供の様子の報告が8割、事務連絡が2割です。
3. 字に自信がないが、それでも あえて 手書きに しています。この方が あたたかみ がある! という 主張 から です。(時々、誤字、脱字があるかも しれません。ご容赦下さい。)
4. 読者は、学級の子供達、保護者、同僚が 対象 です。(そのため、時々、文体が かわります。)

連絡

4月11日の 子供達の 預は、4校時まで 授業、給食、それに 終後、下校と なります。保護者会の日 ですので、行き違いに なります。念のため、お知らせ しておきます。

何卒

どうぞ、よろしく お願い します!!



# 飛行船

平成3年4月11日

2部4年 学級通信

No. 2

## これが2部4年の子供達です!

子供達にアンケートをとりました。その中から一部を紹介  
します。 → P.16

好きな教科 BEST 3

男子	1位 体育	2位 <u>算数</u>	3位 総合活動
女子	1位 体育	2位 音楽	3位 <u>算数</u>

※男、女とも算数が入ってます。(すばらしい!) 算数ぎらいが  
一人いました。これから高学年になるにつれて、算数ぎらい  
が増えていくと一般には言われています。

このクラスではそういう傾向にならぬよう私もがんば  
りたいと思っています。

将来の夢は何ですか?

(男子)

動物に関係ある仕事・ピアニスト・サッカーの選手  
医者・プロ野球の選手・八百八・学者  
剣道の達人・社長・宇宙飛行士・ちゃんとした大人 etc

(女子)

動物の研究・オペラ歌手・科学者・バレリーナ  
ケーキ屋さん・学校の先生・スチュワート・絵がき  
医者・マンガ家・ピアニスト・アイドル etc

※個々のユニークな面がよくでてます。「ちゃんとした大人」  
というのはどういう意味かな〜。

## 田中先生への要望

- ・ はやく 学級文庫をつくらよ。 ・ おこる時もやさしくしてください。
- ・ みんなと いっしょに これからも遊んでください
- ・ 毎日、いのこりさせてよ。 ・ 総合活動でおもしろいことしよう!
- ・ キックベースを毎日、させてください。 etc

## 日記のコーナー

→ P.17

といった感じです。実現できるものはどんな やっていきましょ

今日、算数の時に、大きい数の勉強をしました。大きな数で読みやすいのは、四けたずつしるしをつけると読みやすいです。それと1からどんどん二倍ずつして31回すると十億七千三百七十四万四千八百二十四でした。しかも先生は暗算でやっていたのでおどろいてしまいました。…(中略)  
もと三部三年では、ぼくが一番計算がはやかったから、うれしかたけど田中先生にはかなわないのでくやしいです。ぼくも早くだんをとって先生みたいに10けたとかの見取り暗算ができるようになりたいです。 (//////)

今日、ドッジボールが終わったあとにサザエさんゲームをした。サザエさん足上げてといったら足を上げて、足上げてといった時は足を上げたらいけない。なぜかというときいしょ、サザエさんといっていないから、ひかかたら前が出る。さいよの時はいだれもひかからなかった。先生はいろいろなゲームをしてくれるからうれしい。…(略) → P.17 (//////)

4年生になってからの4日間の様子、少しは伝わりませんでしたか。係活動も自分達で話しあって決めていました。内容的には少々、疑問を感じる係もありますが、子供達と話し合いながら改良していきます。(私は係活動は学級文化を作るものでないという意味がないと思っていますので…)

# 飛行船

2部4年 学級通信

平成3年 4月15日

NO.3

算数教室 (NO.1) 「0」の意味を考える。→P.17

大きな数の学習をしている。ここでは億や兆という大きな数を表す位の名を知り、4けたくぎりにすると読みやすいということに気づかせる。そして、同時に3年まで学習してきた十進位取り記数法のしくみをより確かにしていくことをねらっている。ひと通り、読み方と漢数字にかくことを指導した後

35093021

左のように0が2つ入っている数を提示して、

まず

『0って どういうことを表すもの？』

とたずねた。

すると 「何もないことだ」という。

私『何もないってことだね。では 35093021 の2つの0は 同じ意味？』

同じだ。という子が5~6名。ちがうという子が多数。

同じだ という理由

- 0というのは何もないから、位がちがっても何もないのなら同じことだ。
- 数があるところだと同じ数字でも位がちがえば意味がちがうけれど0の時は同じである。



ちがうという理由 (4004を例にして)

{ 4004の時でも、2つの0は「よんせん れいひゃく れいしゅう  
よん」と読めて、はじめの0は百がないという意味で次の  
0は十がないという意味だから、ちがうと思う。 }

表現は異なるが同様の意見が次から次へと出る。  
この時間、20名の子の発表があった。実に活発なク  
ラスである。知的に鍛えられている。

(不満なことはひとつ。黒板とにらめこして発表する子が多い  
ということ。きている友達を説得する迫力が欲しいと思った。)

しかし位取りの原理を再認識させるためには、この『2つの0の  
意味は同じか』という問いはおもしろかった。

## 4月24日 森林公園でサイクリング!

先週の土曜日、4年部の先生でそろって森林公園ま  
で下見に出かけた。実際にサイクリングもしてみた。雨あが  
りのおいしい空気をたっぷりすいこんで5人の大人がギャ  
ギャー言いながら走りまわった。途中、水遊び場や冒険コース  
もあり、子供達の喜びそうなコースだった。

自転車に乗れない子、または、やや不安だという子がチラホラ、  
いるようです。私の後ろにのせて走ることも考えましたがこの  
コースは、やはり、自分で自由に走れないと楽しさも半減し  
てしまうと思います。あと一週間ありますので、ご家庭で練  
習されると良いと思います。(乗れなくても楽しめるように配慮はいたし  
ますが...)





## 通信を支える想い

### 手書きの通信へのこだわり

こうしてあらためて振り返ってみると、手書きの通信は味がありますね（笑）それにしても、下手な字です。読みにくいと思います。許してください。よくぞ、保護者も子どもたちも読んでくれていたものです。

冒頭でも述べましたが、この時代の通信は私に限らず多くの方が手書きでした。今でこそ、パソコンを使って文書を作ることは当たり前ですから抵抗はないでしょうが、当時はワープロ（ワードプロセッサの略）でうった文書は確かにきれいだけど、冷たい雰囲気があるとされていた時代です。

だから私の仲間もみんなせっせと手書きで通信を書いていた方が多かったのです。

### アンケートをよくとっていました

このクラスに限らず、私は新しいクラスを持ったとき、少し子どもたちと時間を過ごした後、または夏休み明けなど、節目節目でよくアンケートをとっていました。私への要望の中に「おこる時もやさしくして」というのがかわいかったなあ。きっと低学年のとき、叱られて怖い目にあったのかな。なんてちょっとした言葉に彼らの背景が見えて楽しいものです。

### 日記のコーナーで子どもの世界を知ること

通信の柱には、子どもたちの日記を掲載することを取り入れていました。

山口県時代にも同様に、こうして子どもたちの日記で彼らの様子をたくさん報告していました。これは通信を出されている方の多くが取り入れられているでしょうが、私の目的は次の三つでした。

その1 子どもたちが家に帰ってから書くので、子どもの学校外での様子がよくわかる。

その2 子どもにとって学校のどの場面が自宅に着いたときも残っているのかが見える。これはある意味、子どもによる評価でもあります。あんなに算数が盛り上がったと思ったのに、この子どもは体育のことを書いているなあと……。

よし、明日こそ他の教科に負けないように頑張るぞと子どものノートを読むたびに思ったものです。最初は授業もあまり工夫できていなかったと思うのに、



小さなことに喜んでくれていたり、ちょっとした遊びを喜んでくれていたりすることがわかることもあります。

その3 友達の日記を読むことで、他の子の学校以外での取り組みの様子を互いに知ることができて子どもにとっても励みになる

ただ、これがプレッシャーになるという子どももいるので、ある程度は配慮が必要です。だからいつも大作の自由研究のような日記ばかり取り上げると子どもたちも疲れるので、気軽な日常がわかる程度のものも適度に交ぜていくことを意識していました。

## 授業記録に取り組んでいた日々

NO.3では、早速算数授業の報告をしてみました。今思うと、なんとつたない実践であることか。穴があったら入りたいぐらいですが、「2つの0は同じ意味ですか」という発問で、子どもたちがこんなに理由を語れているところを見ると、案外いい発問だったなあと、ちょっとだけ自分に感心してます（笑）

さらに、この頃から、黑板ではなく友達に向かって語りかけるように発表することを意識してたんだなあと……。

表現力を自分の研究の柱にしてきたのだけど、ここに片鱗が見えるかな。

## 野外活動のゲームを仕入れておくこと

このときの日記にもありますけど「先生はいろんなゲームをしてくれるからうれしい」とありました。大ベテランの先生たちに囲まれていて、教科教育ではすぐには追いつけないけれど、こうした何気ない子どもたちとの触れ合いを楽しんでいくことはできると思いました。だから、たくさんの室内ゲーム、野外ゲームなどを仕入れて、休み時間にも子どもたちとたくさん遊んでいました。

帰りの会のときにも、ちょっとしたふれあいゲームもしていました。こうした小さなゲーム活動を通して、子どもたちの人間関係も育てていくということをこの頃から意識していたように思います。若い先生方、ぜひ室内ゲーム、野外ゲームを複数仕入れておくことをお勧めします。

その際、最初はある程度オーソドックスなゲームから始めるといいです。ルールが伝わりにくいと、楽しめませんから。

でも慣れてきたら、ルールが特殊なものを一つ試してみてください。果たして子どもたちがそれを聞き取ってくれているか、またルールを勘違いした友達がいたときに、どのように他の子どもが接するのか……。これを観察することができます。うまくルールが伝わらないのは、教師の説明力不足もあるので、授業力を高める練習にもなります。熟達してくると、あえてルールを曖昧にしておいてわざとトラブルを起こして指導の材料にするというように、レベルをあげていくこともできます。





# 光輝跡

3部4年学級通信  
平成18年4月10日(月)

No.

2

[6]

朝から、子どもたちは元気です。新しいクラスとは思えないほど和気藹々とやっています。ご安心ください。明るくクラスです。

ともかく今月は友達づくりが課題でしょうね。早く新しい友達ができるといいですね。

今朝は早速、みんなでドッジボールをしました。笑顔が満開でした。ある先生が「雰囲気がいいなあ。まだ始まったばかりのクラスなのにねえ」とうらやましそうでした。

でもよーく見ていると早速いろいろなことが起こります。

ある男の子が強いボールを投げました。女の子の顔に当たりました。

男の子は、(ひゃあーやっちゃったあ)と申し訳なさそうな顔をして心配しています。でもその心配そうな顔は女の子には見えていません。周りの子が「あーあ、かわいそー」と騒ぎ始めました。こうしてほんとは優しいその子はちょっとだけ悪者にされてしまいます。別の場面では、他の女の子がワンバウンドしたボールに当たったのに気がつかないで、外野に出ました。それを見ていた男の子が、「あれはセーフだよ」と親切に教えてくれました。女の子は「あっそうなの」とにこにこして内野に戻ります。でも戻ってきたその子を見て、事情を知らない別の子が「あれー、当たったのに出ない。ずるいね」と指差してささやきます。あーあ、これまた誤解されてしまっってかわいそう……。

でもどの子にも悪気はないのです。みんなその瞬間、その瞬間、自分の感じたことをつぶやいているだけ。それぞれにとってもやさしいのですけど……。

いかがでしょう。こんなものなんです。

子どもたちの誤解、これ以外にも実は毎日、たくさん起きています。

すぐそばにいて、こんなに誤解があるのだから、子どもの言葉だけで情報を得る保護者のところには、いかに正しくない情報が伝わっているか……。

想像してみてください。

あの子は乱暴だ、あの子はいじわるだ……。お子さんの言葉だけで、そして低学年時代の先入観だけで、新しいクラスの子どもたちを見ないほうがいいです。マイナスの面ばかり探さないで、どうぞ他の家庭の子どもも自分の子どもと同じように愛おしいと思ってよいところを探してみてください。きっと微笑ましく思えるようになります。

おそらく一生の付き合いになる40名の友達です。

これも皆さんのお子さんの大切な財産のひとつ。大切にしようではありませんか。

[7]

早速、夏休みの研究会についてのお願いをします。

→P.133

7月22日(土) 筑波大学附属小学校算数公開講座 3部4年公開授業のため登校

8月6日(日) 全国算数授業研究会 3部4年公開授業のため登校

(8/6は水泳学校で登校しますので、その合間をぬっての参加となります)

もちろん、これらは土日の研究会ですので、参加については強制ではありません。あくまでも任意での参加のお願いです。

ですから、既に家族でいろいろと予定されている方は、ご家族の予定を優先されてかまいません。もしも、予定が入っていなければ協力していただきたいということでもあります。

ただ本校は、こうした教育研究をリードしていくことを使命としている学校です。

何卒、ご理解の程お願い申し上げます。

[8]

付け加えて、私は次の雑誌のまとめ役をしている関係で、グラビア、その他教育論文で3部4年の子どもたちを登場させることが多くなると思います。

- ◆ 本校発刊 月刊誌「教育研究」
  - ◆ 隔月誌「算数授業研究」(東洋館出版社) 本校算数部の雑誌
  - ◆ 季刊誌「基幹学力の授業」(明治図書) 私が編集長をしている雑誌
- その他、単行本やビデオ、テレビ、子ども向けの本など……。

これらのメディアにお子さんたちの作品や文章を登場させることについてのご理解を賜りたいと思います。もちろん子どもたちに不利になること、危険なことになるような情報は表に出ないように配慮いたします。

ただし、肖像権の関係などで、こうした書籍への掲載をお断りされる場合は申し出ていただければ、削除しますのでどうぞ遠慮なく連絡帳にてお知らせください。

テレビ、ビデオ関係の場合は個別に許可をいただきにあげます。

[9]

<配慮すべきことについて>

基本的には、食事で無理強いをすることはしません。食事の基本は楽しく食べることです。ただ、「食べ物を粗末にしない」ということについては教えたいと思います。ですから単なる好き嫌いの場合はほんの少しでいいから前進することを本人の意思でさせたいと思います。

ただ、その場合、それが単なる好き嫌いなのか、アレルギーや疾病に関するものなのかはこちらが把握しておく必要がありますので、配慮すべきことは連絡帳などでお知らせください。特に給食に関係することは、前担任からも引継ぎは受けておりますが、念のため保護者の方から伺いたいと思います。

付け加えて体調のすぐれないときも同様です。遠慮なくお知らせください。

さあ、今週も楽しくやりましょう!!



「きせき」を残せ! 「きせき」を起こせ!

4部4年学級通信  
平成24年4月9日(月)

# 輝☆跡

No.

1

## ※はじめまして 田中博史です

これからお子様の卒業までの、大切な、大切な、三年間を担当することになりました4部4年担任の田中博史(たなかひろし)です。

どうぞ、よろしく願いいたします。

本校在任22年目になります。2部として1回、1部として2回、3部として1回の卒業生をこれまでに出してきました。4部としての卒業生はこれが最初です。私にとってはおそらく現役最後の卒業生となると思いますので、我がエネルギーのすべてを注いでこの子どもたちを育てたいと思っています。

先週の教室移動の際に、早速、出会った4部のかわいい子どもたちと仲間作りのゲームをしてみました。第一体育室に連れていってのゲームです。

教室のいすに座っている時は、きちんとしていても、体育室などのような広場に連れていくと、途端に乱れるものです。特にゲームをすると、友達と協力できない、ルールを聞いていない……。そんな状態がすぐに表れます。

だから私は、集団を育てるのに、こうしたゲーム集会やクラスイベントをこれまでもたくさん仕組んできました。

さてさてどうなったでしょう。新4部の子どもたち、実におだやかでにこやかです。私の話もぱっと聞きます。かわいい反応です。ゲームをしながら、最初は友達と手をつなぐことをためらっていた子も次第に素直に手をつないで、楽しむようになりました。友達の名前を覚えていくというゲームなので、自然に相手に名前を尋ねることが必要になります。こちらも最初は照れていた子どもたちが、声をかけあうようになっていきました。わずか20分ですが、既に打ち解けた子どもたちもいて、「先生、もう新しい友達が一人できたよ」とうれしそうに伝えに来てくれました。ということで新4部、なかなかいい雰囲気スタートです。これから、三年間、友達づくりではいろいろとトラブルもあるでしょうが、その一つ一つが、彼らが今後人生において必要な人間関係力をつくるよい体験の場だと考えていただき、温かく長い目で見守っていただけますようお願いする次第です。特に、これから清里合宿終了までは、トラブルの連続です。中には私が意図的に仕掛けるものもあります。しばらくは私に任せてください。くれぐれも、過保護になってトラブルの解決に親が出てくるというような浅はかな行為に陥らないよう……。

## ※保護者会時集金のお知らせ



個人情報保護の観点より割愛させていただきます



## ※専科のノートなど

専科の先生が最初の一冊目のノートだけは用意してくださることになっています。ですから今週の授業でのノートの用意はいりません。二冊目以降は同じ形式のものをそれぞれの進度で用意します。

## ※遠足は高尾山

高尾山に行きます。集合は7時45分を目安に新宿の京王線の改札前です。

野村証券の前です。1年生の時に多摩動物公園にいきましたが、その時に集合した場所という記憶にありますでしょうか。解散は3時半です。場所は同じ新宿京王線改札前を目安にしています。

新宿駅の山手線に乗ることができれば、自分で帰ることはできるかな。少しずついいですがお迎えが必要なくなるように電車などにも慣れさせていくといいです。いずれは京都、奈良で自由行動するんですからね。もちろん家族でその後、計画がある場合やまだ一人で帰るには不安な場合には迎えも必要ですので、お子さんとよく約束しててください。子どもに尋ねた時に迎えがあるかないかと言えないというケースが一番困ります。

※雑巾を一人一枚 クラス用としてご用意ください。

### 通信を支える想い

#### 同じようにスタートはゲームで仲良しに

この世代でも、スタートでは同じようにゲームをして、子どもたちの様子を観察していました。この世代は、退職前最後のクラスでもあるため、ベテランの私のクラスには、けっこう元気でわんぱくな子どもたちがそろっていました。でも、みんなゲームで遊び始めるとかわいいものです。試しに男女で手をつないで遊ぶというゲームもしてみました。最初はそれだけで大騒ぎになっていましたが、慣れてくるとずっと手をつないで遊び始めました。そんなことで文句を言い合っているより、ゲームを楽しんだ方がいいとわかったようです。このような子どもたちの変化を私は、どのクラスをもったときにもせせと通信に書いていました。

上学年のクラス経営で私はいつも男女が自然体で遊べるクラスにするという目標をもっていましたので、意図してこうしたゲームをたくさん取り入れていました。